

心臓血管外科

部長 手嶋英樹 主任部長 入江博之

2024年の人事

心臓血管外科は2025年2月において、入江博之（理事長兼主任部長）、手嶋英樹（部長）、田井龍太（科長）、衣笠由祐（科長）、高尾賢一朗（専攻医、7年目）、濱田雄一郎（専攻医、4年目）、廣瀬聡一郎（専攻医、4年目）の7人で診療を行っています。木下萌（専攻医、5年目）は院外研修中です。初期研修医のローテーションを12月に（藤光、1年目）受け入れ、今後も活躍期待しています。学生研修でも複数（高知、岡山、東京など）来ていただきました。2025年4月に異動が予定されており、また新しいメンバーを迎えても変わらずに地域医療に貢献できればと考えています。

2024年度は近森正幸現相談役に代わり入江先生が理事長に就任しました。就任後も精力的に活動していただいています。当科の心臓血管外科専門医は変わらず現在4人在籍しています。常に次の急患を受け入れ診察後に手術対応できる陣容です。入江先生の指導の下、中堅若手はさまざまな専門性に挑戦し、専門医認定をさらに取得予定であります。田井先生が経カテーテル的大動脈弁置換術(TAVI)の指導医など多く専門資格を取得し大谷選手のように二刀流外科医になっています。衣笠先生もステントグラフト指導医など同様に多くの専門資格を取得し、次のデバイスも取得予定で、いわゆる大きな手術も低侵襲もその両方のHybrid(手術+ステント)も行える理想的な外科医として活躍しています。各々の次は修練指導医取得をお願いしています。さらに高尾先生が外科専門医を取得！、次なる目標に向かって頑張っています。若手2名は院外へ出向を予定し、他の釜の飯を食べいろいろ見て経験して大いなる飛躍を期待しています。

当科は岡山大学を施設群とする関連病院での心臓基幹認定修練施設に属しています。2024年2月に学会で決定された新基準の手術数も満たしており専門医を目指す専攻医が修練するのに適格な施設だと思えます。パラメディカルとの協力体制も優れており、体外循環技術認定士も多数在籍しています。循環器内科とのコミュニケーションも良く、低侵襲治療だけでなく、Mechanical circulatory support devicesが必要な患者さんの治療に絶えず協力、手術しています。新たに当科へ見学希望の方はお早めにご連絡をお願いします。

2024年の活動

当科発足以来の臨床での取り組みとして、早期離床や当りハビリテーションは継続中であり、「術後にこんな元気で驚いた」「手術してよかった」とお声をいただきます。高齢者率が高い高知でもあり80才以上の手術が多数を占めており、90才以上の超高齢者もおられます。とにかく低侵襲治療が患者さんの希望として声上がる時代であります。そのような状況、当院の断らない救急医療、生死に関わる重篤な病状で、的確迅速な診断と対応する治療、術前の状態を維持する最適な診療実施と併発症予防などを目標として、早期回復・退院を可及的に目指しています。皆様ご協力をお願いします。

働き方改革元年でありましたが数年前より地道に準備に取り組んでおり、医療水準を乱さず診療移行が職員協力体制のもとに可能となっております。しかしながら、時代の変化も感じるところであり、極端に患者さんが集中して受診・紹介される場合や逆の場合もみられました。満床や急患対応などを理由にお断りした場合もあったかと思われそうです。ご迷惑をおかけしました。背景病状から直入される患者さんもいらっしゃいますが、患者さんご紹介、逆紹介いただける施設の皆さまのお声を聴き、我々がなすべきことを、さらにそれ以上のできることを考え実施していきたいと思っています。

本年は当院を長きにわたり支えてくれた医師が不在になるということで負担が発生、手術を保留、他院へ依頼ということも少なくありませんでした。それを乗り越えた1年間ということ

でさらに飛躍できればと考えています。手術は主に、月曜以外に定例手術枠を確保しており、水曜は横2列で可能、木曜はTAVIを縦3列で可能となっています。外来は月、火、金ですが、主に月曜は新患メインで手嶋が対応、火曜は弁膜症や TAVI を田井先生が、金曜は大動脈やステントを衣笠先生が対応しています。手術対応で担当医師が変更になることもありますのでご留意ください。緊急の場合は循環器内科、ER 科に対応をお願いすることもあります。よろしく申し上げます。必要に応じセカンドオピニオンも可能です。

2024 年の手術数

2024 年の年間総手術症例数は 505 例でした。心臓・大血管手術は 286 例でした。コロナ感染症の直接的影響は変化したのですが、集団発生時の隔離などを含めた院内対策は継続して労力を要するものであり大変です。例年通り年に 4 回程度クラスターの時期がありました。相変わらずの外来や病床診療制限などの課題を経験しました。また夏季が記録上最も暑い夏であった影響か、患者数の変化も認めましたが、ご紹介のおかげでいつも通りの仕事ことができました。ありがとうございました。下肢静脈瘤外科手術再開依頼を受け、一般的手術で対応可能ですのでご紹介ください(冬は急患多く特に春季夏季にお願いできると幸いです、形成外科、皮膚科と協診いただけます)。

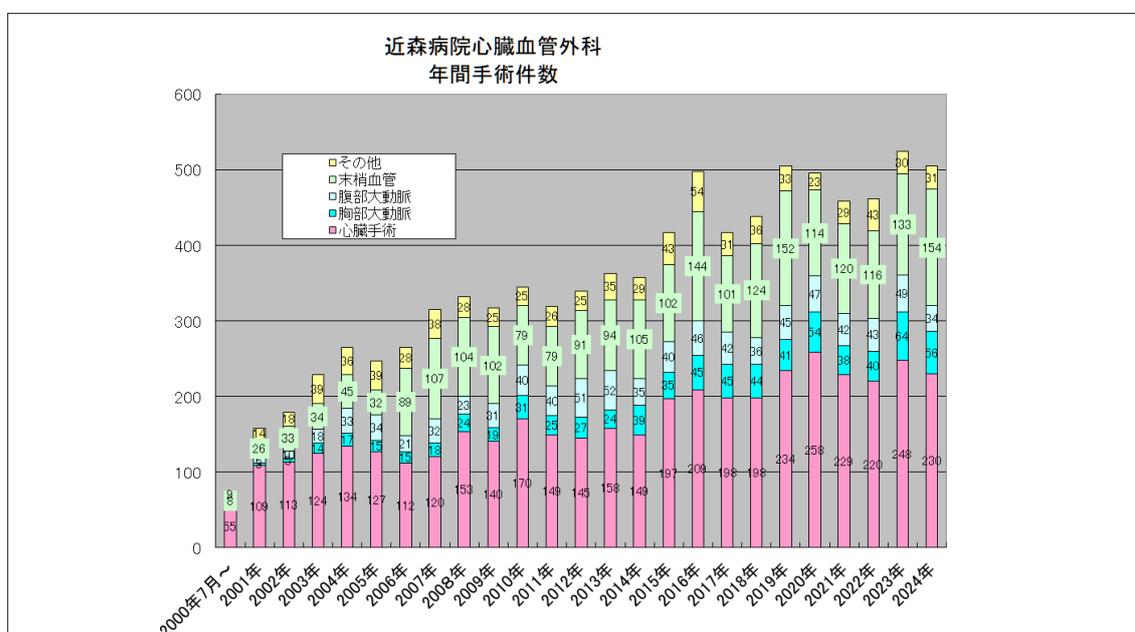


図 1：近森病院心臓血管外科 年間手術件数グラフ

自分は 2011 年から近森病院にお世話になっていまして、15 年目になります。その間いろんなことがあり、ご指導を受けました。ありがとうございました。働き方改革以上の現場の課題で、国民皆保険ではありますが病院も医療費の厳しい時代背景を反映して変化しています。2013 年から開始している経カテーテル的大動脈弁置換術 (TAVI) ですが、多くの患者さんのご紹介を頂き、なんと結果的に症例数は絶えず右肩上がりであります。2023 年 1 月に指導施設に認定後、現在は 3 種類の TAVI 弁使用可能で、透析患者や、生体弁機能不全、TAVI 弁機能不全症例に対する再 TAVI 治療も行っています。TAVI 弁以外の弁膜症などのご相談にもハートチームにて対応可能です。特に近森病院は循環器内科と心臓血管外科の協力体制と相互理解が深い絆で継承できており、お悩みやお困りの際はいつでもどのスタッフにでもご連絡をいただけますと、適宜迅速適切な対応を行いたいと思っています。将来的には、移植や VAD を除く手術手技の獲得と最先端手術対応可能な施設を目指し、また情報伝達のデジタル改革が安全確実迅速に提供できることも目標にしています。

近森病院も数年前に 75 周年を経て、その理念を継承しつつ、最適な医療を提供すべく、医療

スタッフ一丸となっております。「地域医療の最後の砦」としての施設責任を日々の努力で邁進して昇華しています。循環器医療は特にハートチーム全体の努力によりさらなる進化を目指し、常に患者に学び、患者さんや皆様に還元できればと考えております。自分も旧態依然や無知、偏見に陥らずに、恐れず学べればと思います。別の医療側面では患者の生前の意思表示やチーム医療を超えた患者中心医療の概念も踏まえ適切な対応を臨機応変に行える医療人の育成も並行して実施しています。当院ではタスクシフトでさまざまな業種の業務介入を実習中であり、また専門看護師の育成中であります。皆様のご理解をお願い申し上げます。



図 2 : ハートチーム記念写真 (TAVI 指導施設 in 2023)

2024 年の訪問、講演、招待手術など

表形式で、日時、施設、役職、氏名、目的を示しました。

1月13日	広島市立広島市民病院	心臓・大血管 低侵襲治療部 主任部長 (兼) 心臓血 管外科 部長	柚木 継二	手術
2月8日	心臓病センター榊原病院	名誉副院長	吉鷹 秀範	プロクタリング
3月15日	岡山大学学術研究院医歯薬学域 心 臓血管外科(以下、略、岡山大学)	教授	笠原 真悟	手術
3月21日	榊原記念病院	心臓血管外科 医長	在國寺 健太	講演会
3月28日	川崎幸病院・川崎大動脈センター	センター長 院長 看護部長 電子情報開発 室室長	大島 晋 山本 晋 佐藤 久美子 原田 昌明	見学
4月17日	久留米大学医学部 外科講座 心臓血管 外科	准教授	大塚 裕之	プロクタリング

5月10日	高知大学大学院 心臓血管外科	准教授	中村 裕昌	見学
5月17日	岡山大学	助教	柚木 継二	手術
5月22日	岡山大学	教授	笠原 真悟	手術
6月14日	岡山大学	助教	柚木 継二	手術
7月26日	岡山大学	助教	柚木 継二	手術
9月12日	岡山大学学術研究院医歯薬学域 循環器内科学	教授	湯浅 慎介	講演会
11月8日	北海道大学大学院医学研究院 心臓血管外科学教室	教授	若狭 哲	講演会
11月20日	松山赤十字病院 血管外科	部長	山岡 輝年	プロクタリング
11月29日	岡山大学	助教	柚木 継二	手術

特に、大動脈手術指導に柚木継二先生に毎年何度も来高いただきありがとうございます。上記以外でもセミナーなど参加させていただき、貴重なご縁に感謝しております。所属は当時のものとさせていただいております。記載漏れ合った場合はご了承ください。勉強会、情報交換会、ミニウェットラボ、ドライラボは適宜実施していますが今回は詳細は割愛させていただきます。



ミニウエットラボ風景

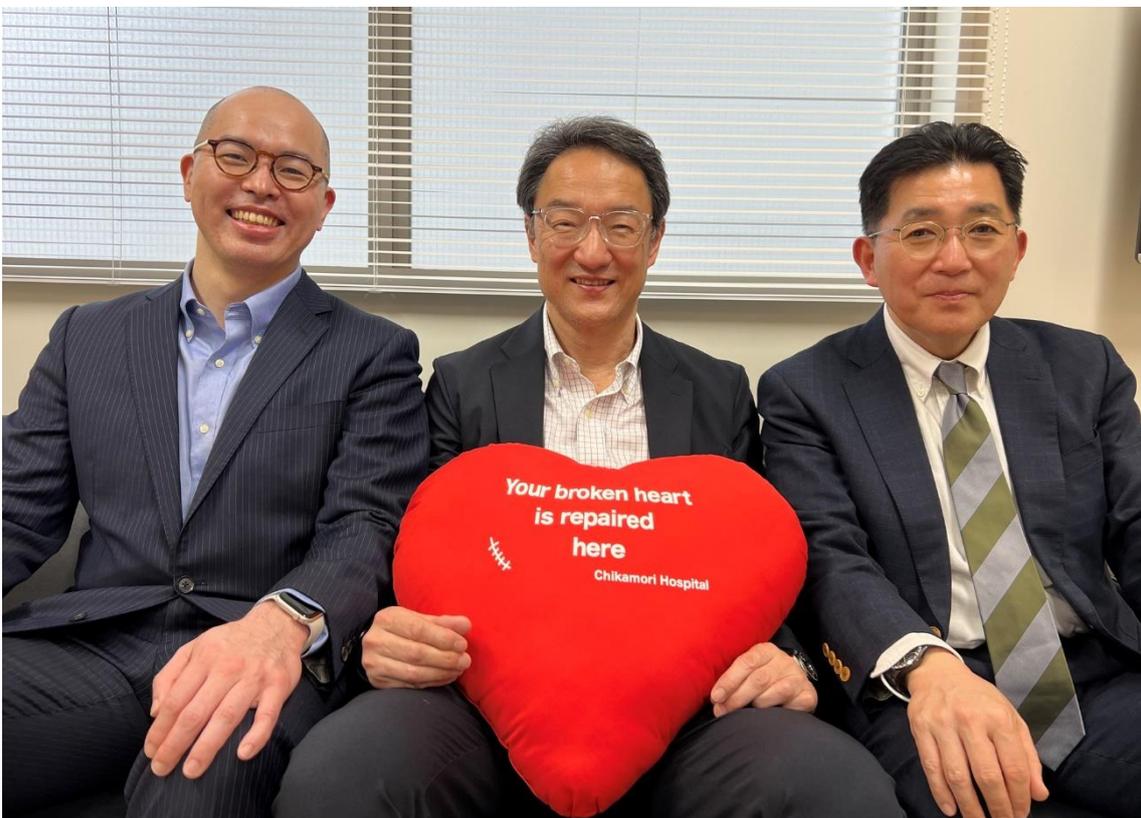


心臓病センター榊原病院 名誉副院長 吉鷹 秀範 先生



榊原記念病院 心臓血管外科 在國寺 健太 先生

「心臓大血管手術の定型化～定型手術の完全な定型化と非定型手術の定型化～」



川崎幸病院・川崎大動脈センター 山本 晋 先生、大島 晋 先生、御一行様



久留米大学医学部 外科講座 心臓血管外科 准教授 大塚 裕之 先生



岡山大学学術研究院医歯薬学域 循環器内科学 教授 湯浅 慎介 先生

「循環器疾患の病態解明と治療方法の開発」



北海道大学大学院医学研究院 心臓血管外科学教室 教授 若狭 哲 先生

「心臓血管外科手術周術期における NO 吸入療法の効果」

2025 年の展望

本年も年報を記載する機会を得て、過去を振り返り、多少熱血気味に記載します。当院当科の若手医師の台頭から次第に活躍していく未来をうかがえます。順風満帆か否か誰にもわかりません。医師不足時代の外科医は人生設計の道をどうなすべきか常に考え挑戦する必要性があると思います。今後当科に来ていただける先生方には期待しています。そのためにも我々は必要な医療を近森病院で提供し、人員を育成し続ける義務を感じています。毎度同じですが、そこには互いに競争であり、心臓血管外科の難しさ厳しさ特殊性などもあろうかと思えます。とにかく継続は力なりです。外科医は、心技体、日々是努力です。

勤務医における働き方改革も制度として 1 年で表向きには定着し、その利点負利点が克明になり日本流の変化が発生すると感じます。さらに当科ではより実質が求められるインセンティブ制度を維持し top runner として運営を継続しています。誰かが休んでもカバーできる実力(休暇中は自由ですが・・・)。過去の古き良き時代の繁栄、現代はそこからの脱却、過去には戻れないため明日への Vision に入っています。医師には応召の義務が要求されます。いつでもどこでも誰とでも何があっても診るわけです。過去の教育制度改革(研修医、専門医、修練施設群など)や本改革を通じ、真の応召の義務を全うする難しさを考えさせられます。高騰する医療費、診療報酬改定など資源は無限ではなく現実問題もありますが、現場は今まで通りの結果を求められます。いくらコスト削減や業務委託しても忙しいものは忙しい。退屈な現場ではないのですが毎日がある意味、時間などとの戦いです。White 社会化での、さまざまな結果に対する評価なども容易ではないと思います。背景としての人口減少は加速しており、統計上の死因の変化も起きています。次なる制度改革や集約化は必要だと思われ、いかなる社会問題や病院経営も前途多難の様相です。ここでも医療は人なり、継続と団結が鍵だと思います。

次に定説だった医師のみが行う仕事や医師の指示に基づき行う仕事の分配がチーム医療の形成においてタスクシフトとして定着したことです。文化、歴史、経済、社会の転換が発生し、週休二日になり働き方というか働き過ぎへの変化が医師にも訪れた形です。医師不足であれば業務移譲は難しそうです。働き方改革以前にタスクシフト不足で混乱を招く余地が多いと考え

られます。実際には医師より看護師不足が大きく、看護業務タスクシフトが同時に発生しています。そうすればすべての職種に問題が及び、人員不足解消、質や価値の維持ができるのか大いなる課題になっています。余談でしたが人員や方法が変化しても院内で仕事量の問題のないようにするための改善が絶え間なく起こるために業務縮小の憂いが出てきます。縮小医療が病院ごとに起こっている様子で今現在我々も直面しています。病院機能の存続、稼働率の課題もあり、関係各位様及び逆紹介を受けていただく病院様へは感謝しております。

基で心臓血管外科の働き方の課題と思われる部分、臨床業務長時間労働(時間外)に対する「時短」が潜在しています。事実労働内容も多種多様でありまして、記録物や書類の多さ、年々諸々増加しており、減らせるものは減らした方がいいし、対価が問題であります。どうしても基本業務量が他科と差異があるように思えます。さらに熟練までの過程で燃え尽き症候群で辞めていきます。今に始まった問題ではありません。保険制度や慣習だけの問題でもないと思います。諸外国のような状況にもなり得ません。医師、医療者としての基本的な精神性も重要ではありますが、この変革の世にどういう人間であるのか、あくまで愚直、惰性、何をすべきなのか、自問自答。すべての関係者が問われる問題です。私自身根性がない性格なのですが今回は覚悟を決めて仲間と一緒に考えて行こうと思っています。

世の中は不況で先行き不透明です。感染症の経過を見ても、国内外の事象より自分の生活が心配な人が多い普遍的な様子がうかがえます。そんな中で病気になっても病院に行かない選択肢も出てきていると思います。病院は路面店舗なので、こちらから出向くことはないです。紹介状がないと行きにくくもなっています・・・この文面を見られる皆様の健康はわかりかねますが、いつかは自分も年を取り自分が患者になる可能性は大きく、その時の選択が人生を変えたいと思います。良い医療者に巡り合い、できれば健康医療の基本は早期診断治療予防が良いと思います。そんな病院になればと思っています。

2024年 学術発表・講演会等

学会発表

演題	発表者	学会名	開催
感染性遠位弓部大動脈瘤に対する非左開胸下の上行全弓部下行置換	手嶋 英樹	第32回中四国心臓血管外科手術手技研究会	2024年1月岡山
TAVI 弁機能不全に対する TAVI 弁による治療	木下 萌	第28回岡山大学外科 MC セミナー	2024年2月岡山
Modified del Nido solution による心筋保護	入江 博之	第54回日本心臓血管外科学会学術総会	2024年2月浜松
当院における TAV in TAV 2 例の報告	木下 萌	第67回関西胸部外科学会学術集会	2024年6月大阪
Kommerell 憩室と異所性右鎖骨下動脈を伴う解離性下行大動脈瘤に対して二期的手術を行なった1例	廣瀬 聡一郎	第67回関西胸部外科学会学術集会	2024年6月大阪
至適範囲外の狭小弁輪、巨大弁輪に対する TAVI の3例	田井 龍太	第14回日本経カテーテル心臓弁治療学会学術集会	2024年7月福岡
Modified del Nido solution による心筋保護	濱田 雄一郎	第31回岡山心臓血管外科カンファレンス	2024年7月岡山
Evolut FX を用いた狭小アクセス症例の検討	田井 龍太	第54回日本血管外科学会中国四国地方会 総会	2024年8月徳島
被覆した腹部大動脈瘤壁からの緩徐な出血による瘤径拡大に対し再人工血管置換術を施行した1例	高尾 賢一朗	第54回日本血管外科学会中国四国地方会 総会	2024年8月徳島
感染性心内膜炎(IE)を契機に発見された感染性腹部大動脈瘤(AAA)の sealed rupture に対し、解剖学的再建を施行した1例	濱田 雄一郎	第54回日本血管外科学会中国四国地方会 総会	2024年8月徳島
Salvage CABG after CPR including ECPR conversions	手嶋 英樹	第6回中四国兵庫 CVS ミーティング	2024年9月Web
SAPIEN3 および SAPIEN3 Ultra RESILIA を用いた TAVI における、TA/TF アプローチの周術期データおよび術後心機能の比較検討	田井 龍太	第77回日本胸部外科学会定期学術集会	2024年11月金沢
当院における急性心筋梗塞後乳頭筋断裂による急性僧帽弁逆流に対する手術経験	高尾 賢一朗	第77回日本胸部外科学会定期学術集会	2024年11月金沢

講演開催

演題	開催
高知医療再生機構補助金 講演会「循環器疾患の病態解明と治療方法の開発」	2024年9月高知

講演

演題	発表者	学会名	開催
SAPIEN 3 Ultra RESILIA の実力～LVOT 石灰化症例に対して変わったこと～	田井 龍太	第15回 ストラクチャークラブ・ジャパン 近畿・中四国支部会～学術講演会～	2024年4月大阪

論文発表・著書

タイトル	執筆者 共同執筆者	書籍名 出版社	巻・号 ページ
TAVI 弁 migration(心臓側,大動脈側)	入江 博之	心臓血管外科手術の落とし穴 南江堂	p.124-126

僧帽弁腱索損傷			
本邦導入のための modified del Nido cardioplegia	入江 博之、田井 龍太、 衣笠 由祐	開心術中心筋保護法の選択 および実践のガイドライン	p.151-152

座長・コメンテーターなど

セッション名など	座長・コメンテーター	学会名	開催
OCEAN-TAVI registry から考える SAPIEN3 Ultra RESILIA の可能性	入江 博之	TAVI Technical Talking Times~OCEAN TAVI Registry の最新 Date を受 けて~	2024 年 2 月 Web
Rapid-fire-Vascular access in TAVI	入江 博之	PRC tokyo valves	2024 年 2 月 東京
これからの 10 年を見据えた TAVI 治療~Lifetime management~ Low risk AS 患者に対する TAVI の 治療戦略を考える	入江 博之	EvolutTM FX Implanter's Summit in 中 四国~最新の Evidence か ら考える TAVI 治療~	2024 年 2 月 Web
高齢化・他疾患罹患時代の抗血栓療 法を考える	入江 博之 (オープニングリマークス)	抗血栓療法セミナー~超高 齢社会における抗血栓療法 を再考する~	2024 年 7 月 高知・Web
Alternative approach を要する TAVI の実際	入江 博之 (コメンテーター)	第 14 回日本経カテーテル心 臓弁治療学会学術集会	2024 年 7 月 福岡
当院でのアイノフロー使用法	入江 博之	iNO Heart Seminar	2024 年 11 月 Web
院内 AS 患者のキャッチ&フォロー アップを考える	入江 博之	Edwards SAPIEN Implanters Meeting	2024 年 11 月 東京・福岡
新しい Evolut の留置法を用いた 症例	田井 龍太	OHENRO TAVI Next Implanters Seminar	2024 年 12 月 高知・Web